

願成寺報

平成二十七年九月十五日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

■ 秋季彼岸・永代経のご案内

今このままを慶ぶことが 仏様への報恩です
そのままの慶びを ご一緒に 見つめ直しましょう

○ 餅つき・草取り会

恒例になりました。
春き立てのお餅をオヤツにします。
楽しい会になっています。
仲間が増えればもっと楽しい！
是非、ご参加下さい。



お餅つき
雨にも負けず
頑張りました



九月 二十一日(木) 午前十時 餅つき・草取り会

二十二日(金) 午後一時半 法要のみ

二十三日(祝) 午前十時 法要・法話

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

浄泉寺(岡崎市)

住職 戸田恵信 師

毛虫

ドイツニerlandでミッキーマウスが近づいてきた時、腰を抜かして逃げる事も出来ず、大きな声で叫ぶ事も叶わない、やっとなんか「あっち行って」と震えていた人を知っています。訊けば、幼い頃から着ぐるみが怖いのだとか：

ミッキーマウスもきつと驚いたことでしょうか。

ごめんごめん：て、この人、何しに来たんだろう：

庭の大切な樹木を枯らすし、近づくだけで身体は痒くなるし、見た目にも気持ちの悪い、大繁殖する毛虫が苦手です。

と云うよりも、怖くて仕方がありません。

恐るおそる殺虫剤をかけると、身悶えて苦しそうです。

気持ち悪くて怖いのに、罪悪感でいっぱいになります。

次に生まれるなら、毛虫のいない世界がいいと思います。

阿弥陀経の浄土は、七重の垣根に囲まれた安心の世界です。

鳥が歌い、樹木は花びらを美しく散らしています。

池の蓮はそれぞれの色を反射し、光輝いているそうです。

そんな美しい世界に、毛虫はいないのだろうか：

お経にはありませんが、毛虫も毛虫として輝いている筈です。

毛虫同士は争いませぬ、仲良く並んで葉を食みます。

また、写真で見るとなかなか愛嬌のある顔をしています。

毛虫に輝きを見ないのは、私の観方の問題でした。

修行が足りない反省すべし。でもやっぱり怖い、誰か助けて。

智慧ノ光明ハカリナシ 有量ノ諸相コトゴトク

光暁カブラヌモノハナシ 真実明ニ帰命セヨ

《讚阿弥陀仏偈和讚・親鸞聖人》

● 正信偈ノート⑮・竜樹章Ⅲ

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

憶念弥陀仏本願 自然即時入必定

黄色の勤行本の

唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩

二十八ページから

弥陀仏の本願を憶念すれば、自然に即の時、必定に入る。

ただよく、常に如来の号を称して、

大悲弘誓の恩を報ずべしといえり。

・本願

弥陀仏の場合、迷いのない私の国土に生れて欲しい、生れるまで見放さないとの誓願。
(注筆者)

・憶念

浅はかなはからいで仏に背き続ける我と、仏の我への功德を想うこと。
(注筆者)

・自然

じたばた煩う心が廢れた所に、自ずからそのようになること。
(注筆者)

・必定

弥陀の浄土に生れる身と定まること。
(注筆者)

・報恩

恩に報いる(知る)。
(注筆者)

・奇跡としての我が身

ビッグバン以来約140億年を経て、半径140億光年を超える広大な宇宙の、ほんの小さな塊の上に80年程度を寿命として生れた小さな生物がいて、私はそれを私だと思っている。多分奇跡的な偶然が重なって、石器時代でも戦国時代でもない平成の現在を、五十五歳で暮らしており、まあまあ元気で坊さんをやっている。父を亡くし、母・妻・息子がおり、犬と亀を飼っている。

奇跡的な偶然が重なってそうあるのだから、私自身も取り巻く世界も、ダイヤモンドのように輝いていていい筈だと思う。

・地獄を創り出す我

そんな私について、選んでそうだったという部分も無くはない

が、はるかに小さい。大部分については、たまたまそうになってい
たとしか思えない。

「お互い奇跡的なご縁でこうしてある訳だが、君は満足か？」
小さな水槽の孤独な亀に問いかけてみる。答えは得られないが、
代わって欲しいと思っているに違いない。少なくともこの亀より
私の方が自由だと思われる。けれど私は私で、もつと自由な人を
知っているし「全然思い通りでない」と感じている。問題は波の
ように押し寄せて来るし、苦しくて堪らない、できれば逃げ出し
たいと思っている。「人間も相当辛いぞ」と亀に打ち明ける。

この中途半端で小さな自由で何をすれば良いのだろうか…

・世界の再発見

思い通りの結果を思い描くことをはからいと呼ぶ。結果をあて
にするから裏切られるのではなかったか。はからいが迷いを呼び、
失望が煩いとなる。もし、この煩いが私だけのものであるなら嘆
くしかない。けれどもし、他の人の上にもこの煩いを見るのであ
れば、越えていこうと思う。超えた人に学び、煩いと共に生きる
私になっていこう。拍手はされなくてもその姿にはきつと意味が
ある筈だ。その意味が感じられたら、世界は輝きを取り戻すに違
いない。

煩う姿のまま、念仏申す人々の確かな歩みの行列に、ついて
行こうと思えます。



創作・シツダールタの廻心

沙門は尼連禪河の緩やかな流れにも足を取られながら、六年間の苦行のことを思っていました。

これ以上の苦行は肉体を減ぼすだけだ。

それを代償として魂の自由を得たとして、その自由にどんな意味があるだろう。

老病死、すべては苦により無に帰す。

苦行林のどの達人も、この虚しさから離れた者はなかった。

久しぶりの沐浴に痩せ細った身体を洗い、

村娘から供養された乳粥を乾いた身体に流し込んだ時、

心地よく響き先を導く声を聞いた気がします。

乳粥の魂が私に宿り、私の魂も新しく生まれ直した。

肉体と同じように、魂も常に死に新しく生まれ直していたのだ。

私と呼べる不変で固有の、輪廻する魂などもとなかった。

すべては縁によって成り立っている。

その縁によって世界とつながっている。世界の一部としての私。

後に菩提樹と呼ばれる樹の下に座り、そのことを確かめます。

何故苦を厭うのか、苦を縁として出会える世界を慶べないか？

一切皆苦から逃れた者はない。

苦を原理とすればより広い世界と繋がるのではないか？

肉体が減びても世界は残る、虚しさの根拠は何処にあるのか？

既に私の身を煩わせ、心を悩ますものはなくなった。

尼連禪河は川面を金色に輝かせて流れ、

ブツダの誕生を祝福したということだ。



【漢字】たのむ／たすける／すくう

意味のある文字・漢字は面白い（参考「新漢語林」電子版）

・たのむ（囑怙恃頼馮憑）

囑む 従いつくの意。口で言って人を従わせる、言いつける。

怙む 心が固まるの意。人への期待が固まり、たのむの意。

恃む 心待ちにした状態、たのむ。

頼む 幸いや利益を得ることをたのむ。利益資産にまかせる。

憑む すがる、拠り所とする。よりかかる、もたれる。

身を任せる、乗る、宿る、住む。

* 仏をたのむ場合、この文字に落ち着くようです。

・たすける（丞介佐佑侑助尚幫弼扶援毘相祐翼資輔…）

介ける 鎧に入った人の象形で、鎧・区切る・仲立ちしたすける。

翼ける かばう、まもる。脇から両手でたすける。

資ける 金品を与えて助ける。

賛ける 神に供え物をすすめて、まみえる・つげる・たたえる。

輔ける 車の補強材、力をそえるの意。

助ける 力を上に重ねてたすけるの意を表す。

援ける 手を付し、引き上げる。

丞ける 穴に落ちた人を両手で助け上げる様を表現。

・すくう（匡拯救済）

匡う 在り方をただして助ける。

救う 力や物資を集め、貸して助ける。

済う おわる、決着がつく。川をすすむ、渡すの意あり。

貧困や障害をわたり過ぎさせて助ける。

水に沈もうとする人を助け上げる。

* 衆生を溺れる水ごと掬い取る仏の働きを表すのは

行事予定 平成二十七年

九月二十三日(水・祝) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時(昼食)あり
午前十時

十一月三日(火・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

左記参照

十二月五日(土) 報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です

お非時(昼食)あり

五日 午後一時半から

六日 午前十時から

毎月(十一月はお休み) 月例会

第一火曜日 午後一時半

本山納骨堂法会・団体参拝のご案内

市内・近郊のご寺院様と貸切バスにて日帰り参拝します



■期日 平成二十七年十一月三日(火・文化の日)

■日程 六時三〇分 寺・豊橋駅集合

十時〇〇分 本山着 【参拝・昼食】

十五時〇〇分 おちよぼ稲荷 【観光・買物】

十八時〇〇分 豊橋着(予定)

■会費 八、五〇〇円 バス・昼夕食・旅行保険代他

■納骨 納骨の方は一霊につき二万円必要(納骨冥加金)

■申込 願成寺までご連絡下さい(十月十八日まで)

■他 ご不明な点は寺までお問い合わせ下さい

後記

○身近な所にゴミ屋敷があります。そのゴミはきつとバリアなのだ
と思います。相続など、自分を傷つける問題が侵入してくるのを
防いでいるようです。しかし問題から眼を背けている間、安心は
得られず、バリアはどんどん厚くなってしまいます。
外から見ると、そのゴミは痛々しく「こんな私を赦して下さい」
と叫んでいるようです。

○多くのものを抱え込んで安心しようとはしますが、逆に不安を煽る
ことがあるようです。

○新しい生活を選び取るためには選り捨てることから始めます。
しかし、捨てる・手放すは案外難しいと気づきます。

○息子があれもこれもと沢山の本を抱えて学校に行きますが、もの
にはならないだろうと思います。「これを学ぶぞ」と狙いを定めて
教室に座らなければ、得るものは少ないと思います。

○問題を抱えて不安な時、それを隠そうと鎧を着たり槍を持ったり
しますが、そんな誤魔化しでは解決は遠くなる一方です。

○問題から眼を背けず、外にも見せていくことが近道でしょう。
ほんの少しの勇気があれば、身軽になることが出来る筈です。

○学生時代、四畳半の下宿に小さな冷蔵庫を置いていましたが、い
つの日か、開かずの冷蔵庫となりました。中にキャベツを入れた
と思うのですが、思い出せません。ドロドロに溶けていたらどう
しよう、どんな悪臭が漂うだろう。夜中にウンウン唸っていました。
だが、電源を切ることも、中を見ることももう出来ませんでした。
いよいよ引越という時、友人に居て貰って、やっと開けることが
出来ました。何のことはない製氷板に分厚く霜が凍り付いていた
だけでした。

○傷つく事を恐れている時、「もともと小さな私」を忘れていきます。
お念仏申す時、小さな私の小さな不安が大きな安心に包まれます。
負けても・失敗しても・傷ついても、歩める道が顕われます。